SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

静岡県立袋井高校周辺の小笠層群の堆積構造

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-06-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 森, 伸一 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025298

静岡地学　第70号（1994）

静岡県立袋井高校周辺の小笠層群の堆積構造

森　　伸　一*

袋井高校は小笠山(標高246 m)丘陵の北西端に位置し、学校周辺には小笠層群(下部～中部更新統)に属する砂礫層および泥層が分布している。これらの砂礫・泥層について、地質調査・礫種調査・砂粒の鉱物組成・泥層中の花粉分析などを行い、これらの地層の堆積期に、古大井川のほか古天竜川の影響を受けた時期があることを指摘し、堆積環境と気候変動との関係を考察した。その結果の一部は、第30回年会および本誌第68号（1993年11月）ですでに報告した。

この調査の過程で、気候変動により海面が上昇（または下降）する時、どのような堆積がなされ、それは具体的にどの露頭で観察できるのかが疑問であり、課題でもあった。そこで、昨年10月以降、地学部の生徒とともに、図1の範囲の露頭についてもう一度詳しい地質調査を行い、地質柱状図を作成した(図2ａ，２ｂ，２ｃ)。その結果、これまで泥層としていた地層中に何枚かの薄い砂層が挟まれていること；砂層の粒径も様々でいろいろなラミナが見られること；ラビーンメント面と思われるものもあることなどが判った。そこで、これらの堆積構造を手掛かりに堆積環境を推定しようと試みた。なお、今回の調査範囲は袋井高校周辺の南北約750 m、東西約1,150 mで、全層厚は約140 mであった。次ページ以降に地質柱状図および堆積構造の写真・スケッチを示す。

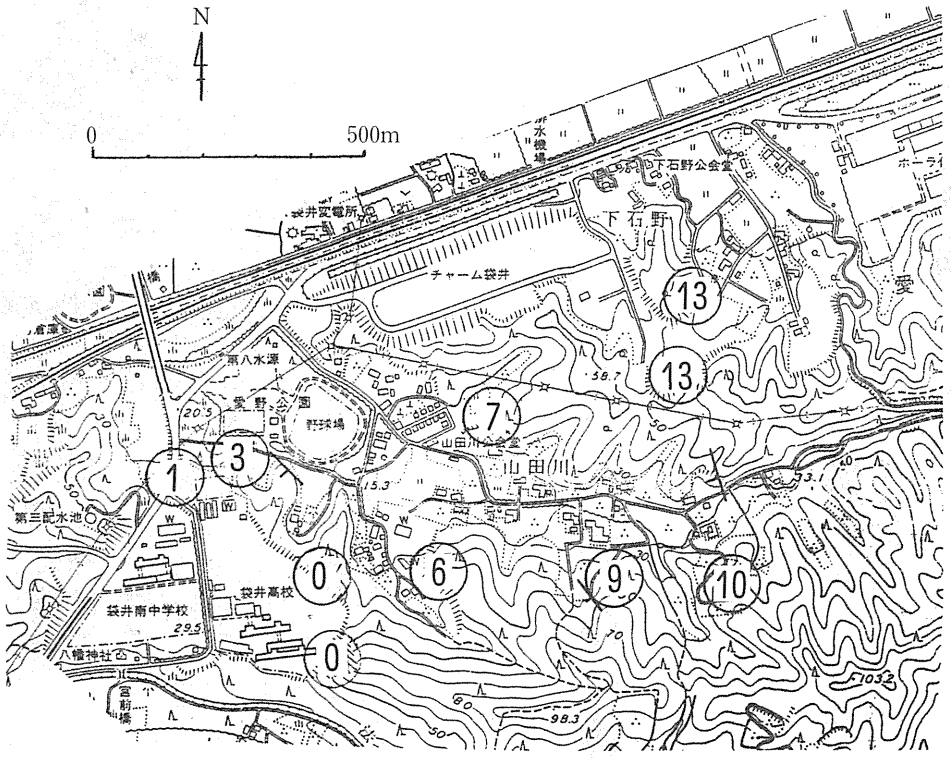

図1　調査範囲と露頭番号

*静岡県立袋井高等学校

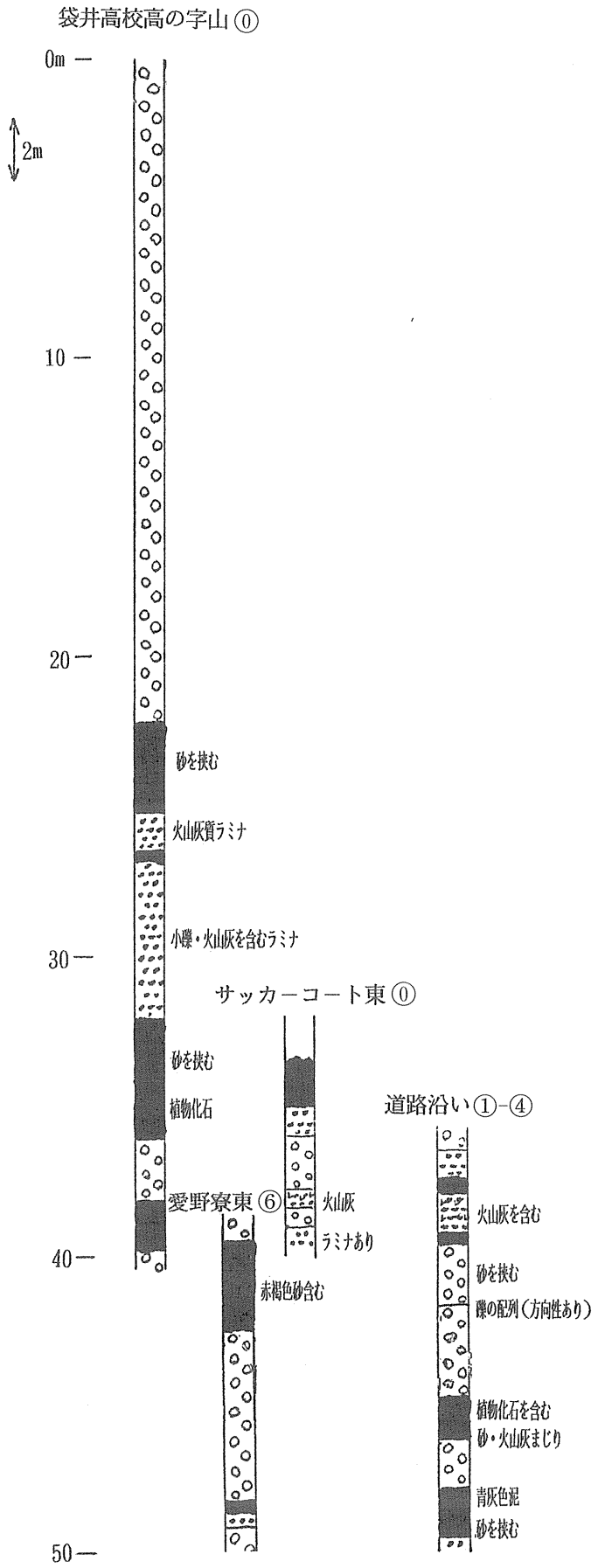

図２ａ　袋井高校～下石野の地質柱状図(1)

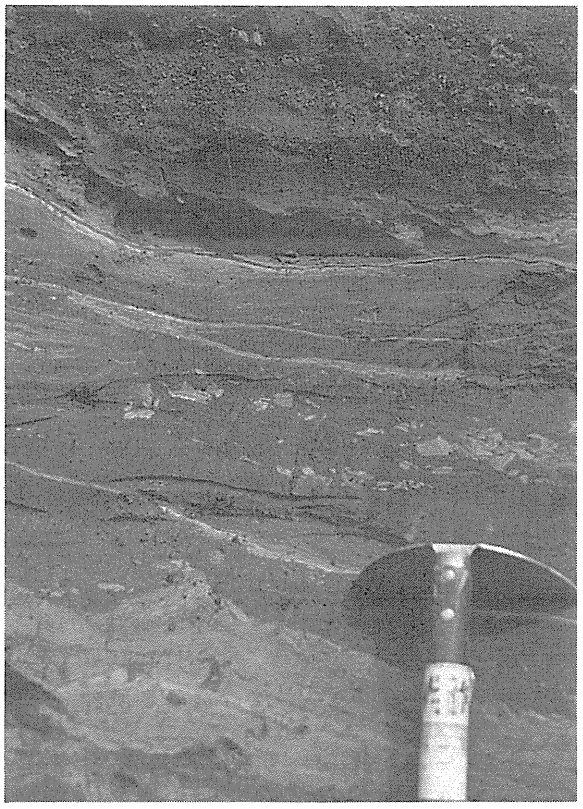

写真１　高の字山⓪中段下、火山灰質ラミナ中の泥質偽礫

写真２　高の字山⓪中段下、砂層下部のラビーンメント面

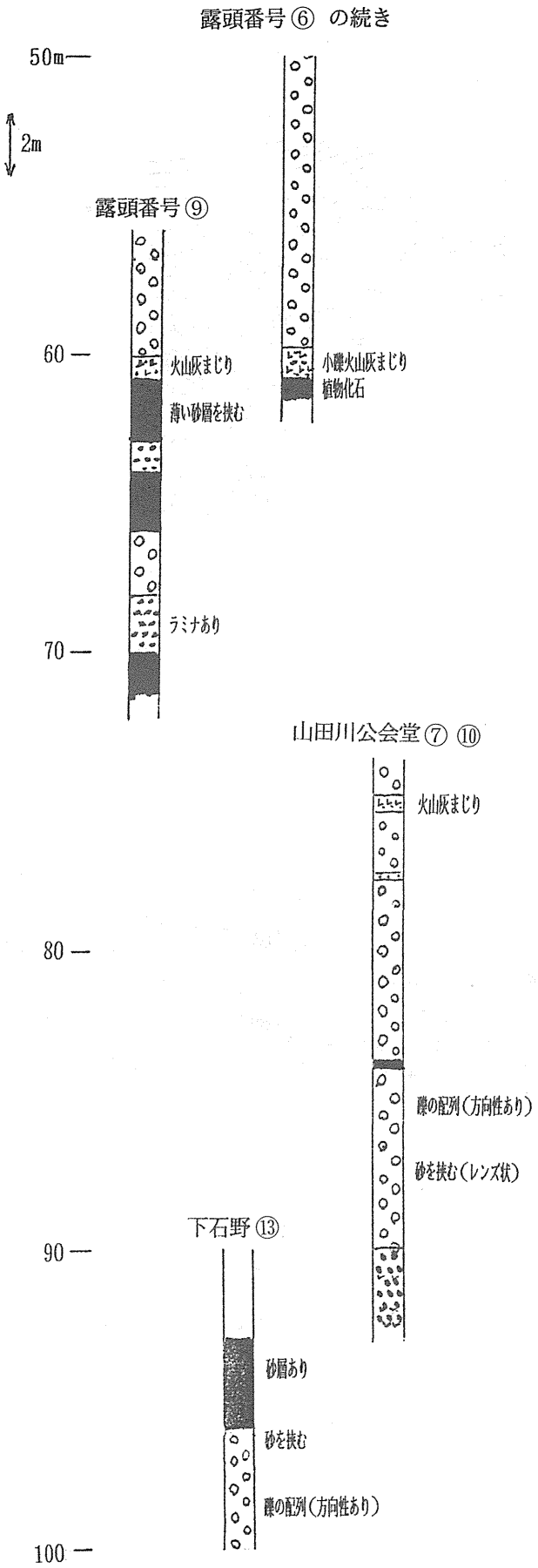

図2ｂ　袋井高校～下石野の地質柱状図(2)

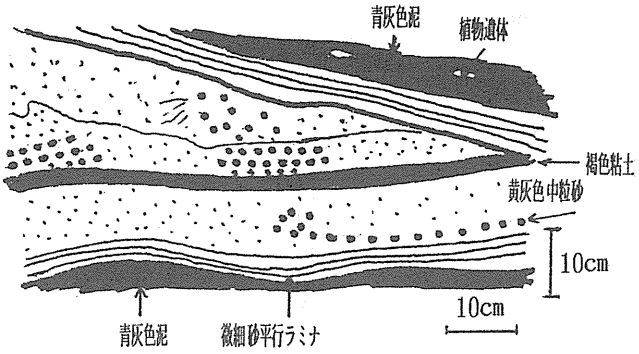

図3　道路沿い④のストーム堆積物
細粒～中粒砂層が泥層に挟まれ、連続性に乏しい。

写真3　山田川公会堂⑦の礫層の堆積状態

下石野 ⑬ の続き

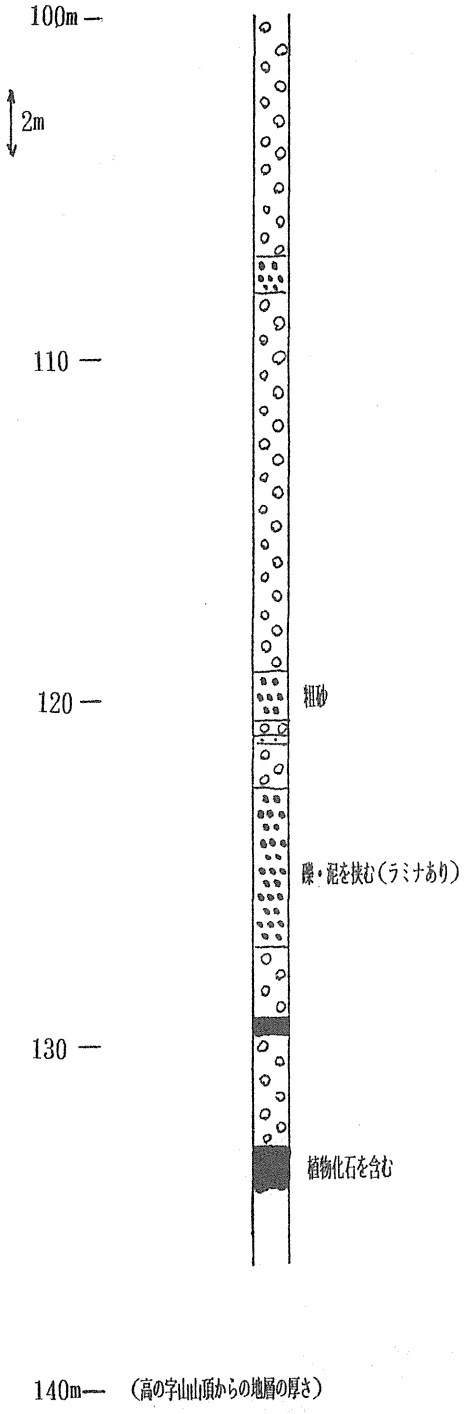

図２ｃ　袋井高校～下石野の地質柱状図(3)

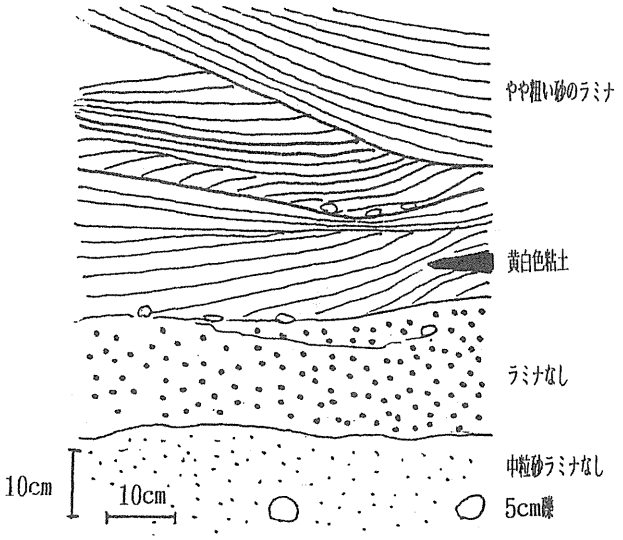

図４　露頭番号⑨の砂層中にみられる斜交層理

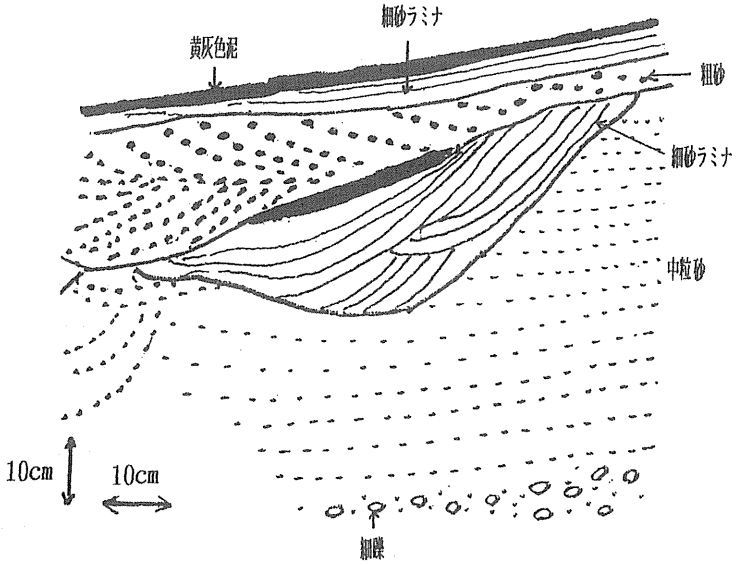

図５　下石野⑬下部のウエーブリップルなど